

大切だ。

なお、医療用医薬品では、より効果が強く、副作用としての眠気が少ない抗ヒスタミン剤や抗ロイコトリエン薬の新薬が登場し、治療の選択肢が増えている。例えば、2016年に登場したデスロラタジン（商品名「デザレックス」）は副作用としての眠気がより少ないもので、自動車の運転などをする人に向いている。また、エメダスチンフマル酸塩貼付薬（商品名「アレサガテープ」）は、効果も眠気も強い成分を皮膚から徐々に吸収する貼り薬にすることで、効果が持続し眠気も少ない医薬品として開発された。また、鼻づまりの強い患者のためには、抗ヒスタミン薬に鼻づまりを軽減する成分を配合したものもある。それぞれ効果に個人差があるのでじっくり自分に合った薬を探すことが重要だ。

満屋所長のグループは、新型コロナウイルスが細胞内で増殖する際に必要な「プロテアーゼ」と呼ばれる酵素に着目し、酵素の働きを妨げ、ウイルスの増殖を防ぐ治療薬の研究を昨年2月から進めている。

これまでに400種類余りの化学物質を人工的に合成して、こうした物質を使ってウイルスに感染した細胞で実験を行ったところ、2種類の物質が酵素と結びついて、ウイルスの増殖を抑える効果が特に高いことが判明した。

このうちの一つは現在、患者の治療に使われているレムデシビルと合わせると、ウイルスの増殖が1億分の1にまで抑えられた。

満屋所長は「さらに効果の高いものを合成するなど、より有望な物質の探求に努めたい」と話していて、今後、動物実験を行うなど、臨床での応用を目指して研究を進めるといふ。

新型コロナ 治療薬候補物質を発見

新型コロナウイルスに感染した患者の治療には、他の病気の薬で新型コロナへの効果が確認されたものが使われているが、まだ特効薬はない。

国立国際医療研究センターのグループは、ウイルスの増殖に必要な酵素の働きを妨げる新たな治療薬の候補となる物質を複数見つけたことを明らかにし、今後、臨床での応用を目指して研究を進めるといふ。

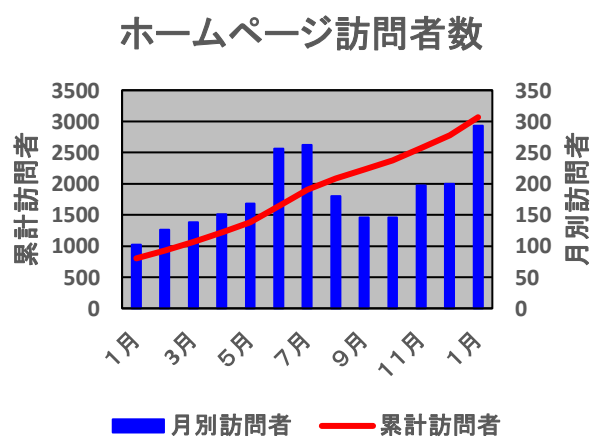
ホームページ訪問者 3000人超

美心会ホームページは、初版が突然凍結され、再構築したものが現在のホームページだ。再公開は2019年5月31日。



国立国際医療研究センターの会見

これは国立国際医療研究センター研究所の満屋裕明所長がメディア向けのオンラインセミナーの中で明らかにした。



2020年1月から2021年1月の推移

昨年1月から今年1月までのホームページ訪問者数の変化は上記のとおり。1月末現在の累計訪問者数は3067人と3000人を突破、1日あたりの最多訪問者数は41人である。